

明治日本の産業革命遺産

ラストサムライの挑戦！
技術立国ニッポンはここから始まった！

岡田 晃（経済評論家・大阪経済大学客員教授）



ラストサムライの挑戦！
技術立国ニッポンはここから始まった！



「日本の奇跡」と言われる明治の近代工業化の礎は、江戸時代末期のサムライたちによって準備されていた。製鉄、造船、石炭産業などの現場では、政治の対立を超えて協力し、奔走する人々の熱いドラマがあった！

徳川家広氏、島津公保氏、推薦！

集英社

定価：本体 1,900円＋税

四六判ハード／296ページ（カラー口絵含む）

ISBN 978-4-08-786100-6

現在の世界遺産「明治日本の産業革命遺産」を撮影した
カラー口絵のほか、本文中にも昔の貴重な写真や資料が満載！
保存版にしたい1冊です。
どうかご紹介のほど、宜しくお願い申し上げます。

「日本の奇跡」と言われる明治の産業革命の礎は、幕末のサムライたちによって準備されていた。製鉄、造船、石炭産業の現場では、藩の垣根を超えて技術を共有し、奮闘する人々の熱いドラマがあった！

例えば、製鉄のもととなった伊豆の反射炉の技術は、佐賀藩と伊豆の代官・江川英龍が協力して研究が始まり、佐賀から薩摩へ、さらに水戸藩を経由し、最終的には釜石の洋式高炉に結実した。それが明治時代に官営釜石製鉄所や官営八幡製鉄所へと発展を遂げる。

造船に関しては、島津斉彬の命を受けて幕府の長崎海軍伝習所で学んだ薩摩藩士・五大友厚は、トーマス・グラバーらと共に長崎の小菅修船場を建設した。これが現在の三菱重工長崎造船所につながっていく。岩崎弥太郎、弥之助、久弥の3代に渡る三菱重工業の社長たちの事業拡大の歴史とも重なる。

『軍艦島』で知られる石炭産業の発展においては、福岡藩士だった團琢磨の見識と、技術導入へのアイデア、決断力が、石炭産業の多大な発展を促した。

幕末から明治の激動の時代に奔走した、若きサムライたちや現場の無名の職人たちの、ひたむきなチャレンジ精神を感じる熱いノンフィクションです。

5月25日
(金)
発売！

【目次】

はじめに —— 明治一五〇年が教える“日本の底力” ——



第一章 “西郷どん”や“五代様”を育てた薩摩藩・島津斉彬の挑戦
—— ピンチをチャンスに変えたリーダー ——

第二章 志士の息吹を今に伝える長州・萩
—— 吉田松陰から伊藤博文へ ——



第三章 実は近代化のトップランナーだった佐賀
—— 「地方創生」の先駆け ——



第四章 知られざる“近代化の父”江川英龍
—— 改革に命を捧げた伊豆の代官 ——

第五章 陰のプロデューサー、トーマス・グラバー
—— “近代化特区”となった長崎 ——



第六章 長崎から世界へ
—— 造船大国ニッポンの船出 ——

第七章 反射炉から釜石、そして八幡へ
—— 産業革命の主役「鉄」 ——



第八章 産業革命のエネルギーを支えた石炭産業
—— 育ての親・團琢磨 ——



おわりに —— 日本経済再生に向けて ——

撮影／岡田晃

著者プロフィール：岡田 晃（おかだ あきら）

経済評論家・大阪経済大学客員教授

1947年大阪市生まれ。1971年慶応義塾大学経済学部卒業、同年日本経済新聞入社。

記者、編集委員を経て、1991年テレビ東京に異動。経済部長、テレビ東京アメリカ（米国現地法人）社長、理事・解説委員長を歴任。

その間、「ワールドビジネスサテライト（WBS）」をはじめ数多くの経済番組のキャスター、コメンテーター、プロデューサーをつとめた。

2006年テレビ東京を退職。同年に大阪経済大学客員教授に就任するとともに、経済評論家として活躍。

●著者：『やさしい「経済ニュース」の読み方』（三笠書房）、ホームページ：「岡田晃の快刀乱麻」<http://okada-akira.jp/>

本件に関するお問い合わせ先

取材、書評などのご連絡は（株）集英社 学芸編集部 ビジネス書編集 佐藤絵璃あてにお願い申し上げます。
カバーのPDF画像や著者の写真データなども、すぐにメールでお送りいたします。

株式会社 集英社 〒101-8050 東京都千代田区一ツ橋 2-5-10

<http://www.shueisha.co.jp/>

学芸編集部 ビジネス書編集 佐藤絵璃 Tel 03-3230-6068 Fax 03-3230-1927 E-mail e_sato@shueisha.co.jp